



氷川前遺跡第99-1地点 発掘調査速報

作成日：2024.2.15
富士見市教育委員会
生涯学習課 文化財G

— ⑩ 令和6年1月15日～1月31日 —

年が開け、令和6年1月中の調査では、調査の仕上げとして、見つかった遺構や調査区全体の図面・写真をとる作業が主となりました。調査の成果を残していくための、大事な作業です。
それらが終了した後には重機による埋め戻し作業を行い、今年度の現場での調査は修了となりました。
現場での調査によって発見された土器などの遺物や、遺構の状況を記録した図面などは、富士見市文化財整理室へと持ち帰り、整理を進めていきます。



「平板測量」による、検出された遺構の図化

令和5年10月10日から開始した今年度の発掘調査は、令和6年1月31日で埋め戻しまで終了することができました。最終的な調査結果として、縄文時代の住居跡2軒、弥生時代の住居跡19軒、平安時代の住居跡1軒など、多くの遺構が確認できました。

過去の調査で、氷川前遺跡の西側では弥生時代後期の集落跡が広がっていることが確認されていましたが、今回の調査によって、集落の範囲が遺跡の中央付近にも及んでいたことが明らかになったと言えるでしょう。

氷川前遺跡には、まだ発掘調査が行われていない部分も多く、今後も多くの発見が期待されます。



重機による埋め戻し作業の様子